



地球への友好 使者

marudo88

地球への友好使者

ゴキブリ星ではゴキブリ星人が増えすぎて、食糧難に陥り、共食いまで始まっていた。そこから数光年先に、地球という星があった。地球にはその昔、たまたまゴキブリ星の破片が飛んで行って、今のゴキブリ星人よりはるかに小さくなってしまったが、同類が、地球で長く生き延びているということが、わかっていた。

地球人と、共同の生活空間にいるらしいということもわかっていたが、小さくなったとき、脳が退化してしまったらしく、ゴキブリ星に、なんの連絡も寄せなくなっていた。しかし、地球人類と生活空間を共にしているということは、両者、なんとか仲良くやっているのだろう。

そこで、移住先は地球に決定された。まず、ゴキブリの食生活を記したパンフレットを地球にばらまいたのち、こげ茶色の宇宙カプセルに乗って、大挙、地球に押し寄せていく、という計画が練られた。

そうしてまず、特使として、一人の勇者がまず、地球へ行くことになった。彼はいま、地球に降り立ったとき、真っ先に述べる、地球人へのメッセージを、地球語で言う練習をしているのである。

「こんにちわ、わたしわ、ゴキブリ星人です。わたしわまいにち、ざんぱんお、たべます。わたしわ、はんぶん、くさったものが、すきです。いまからいきます。

わたしのなかまが、むかし、よろしくおねがいしました。わたしも、よろしくおねがいしました。わたしわ、1・5めーとる、おおきいです。あとで、なかまが、おおぜいいきます。うれしです」

少しおかしいにせよ、数光年も離れた遊星の言葉を、ここまで習得しているのである。

準備は整った。いざ、彼はこげ茶色の宇宙カプセルに乗って、今まさに、ゴキブリ星から、はるか地球へ飛び立つところである。

カプセルのなかには、室温35度、湿度90%、腐った食料も数年分、積み込まれ、快適な匂いが部屋に立ち込めていた。無数の

、1・5mの身長ゴキブリ星人たちに見送られ、ロケットは打ち上げられたのである。

地球への友好使者

<http://p.booklog.jp/book/109055>

著者 : marudo88

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/marudo88/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/109055>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/109055>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ